

2025 年度

大学院保健学研究科 シラバス

[博士後期課程 1・2 年生用]

藤田医科大学大学院保健学研究科

目 次

大学院保健学研究科（博士後期課程）のカリキュラムについて	i
大学院保健学研究科の3方針	ii
修得単位数	iii
教育課程表	iii
授業科目と科目担当者	iv

共通科目

科 目	ページ
保健科学概論	1
保健科学研究論	3

看護学領域

看護学分野

科 目	ページ
保健看護融合科学特論	5
保健看護融合科学演習	7
保健看護融合科学特別研究	9

リハビリテーション科学領域

リハビリテーション療法科学分野

科 目	ページ
リハビリテーション療法科学特論Ⅰ	11
リハビリテーション療法科学特論Ⅱ	13
リハビリテーション療法科学特論Ⅲ	15
リハビリテーション療法科学特論Ⅳ	17
リハビリテーション療法科学演習Ⅰ	19
リハビリテーション療法科学演習Ⅱ	21
リハビリテーション療法科学演習Ⅲ	23
リハビリテーション療法科学演習Ⅳ	25
リハビリテーション療法科学特別研究	26

大学院保健学研究科（博士後期課程）のカリキュラムについて

保健学の広範な知識の修得と独創的な博士論文の作成を目指して

大学院保健学研究科長 長谷川みどり

藤田医科大学大学院保健学研究科保健学専攻（博士後期課程）では、修士の学位又は専門職学位、又はこれらに相当する学位を取得した者を対象に、高度な知識と科学的思考に基づき、地域保健福祉・医療現場と協働しながら問題が解決できる資質と、高い倫理観を有した高度専門職業人、研究者、教育者を養成します。また、看護学、リハビリテーション療法学を架橋し、既存の学問分野の枠組みを超えた形で分野横断的に専門学術知を融合することで、学際的な視座から多様な問題を解き明かすことのできる能力を修得することを教育研究上の目的とします。2024年4月より、看護学領域とリハビリテーション科学領域の2領域に再編されました。

各分野の1年次には、共通科目の保健科学概論、保健科学研究論を通して各領域に共通する保健学の重要な概念を広く学びます。特論科目では、保健看護融合科学、リハビリテーション療法学の知識や技術をさらに深め、各領域における最新の理論や知見を学修します。演習科目は、解決すべき課題を広く探求し、論点を解決するための思考を整理・鍛錬することを目的としています。3年間の継続的な研究の遂行と成果の積み上げを要する特別研究では、保健学専攻の各領域の先進的な知見の探求や、技術開発の課題検討を通じて、院生の発想力や理論を構築するスキル、能動的な問題解決能力を高めます。1年次前期に研究計画を決定し、後期からその計画に基づいて研究活動を展開します。3年次には、これまで取り組んできた課題について博士論文を執筆し、筆頭著者としてこれまでの研究成果を広く社会に発信するために、国際学術誌などへ投稿します。

本シラバスは、院生が主体的に学修活動に取り組めるよう、科目ごとに授業計画・評価方法・教材等を明記しています。

保健学研究科での3年間が、皆様にとって将来のキャリア形成に繋がるかけがえのない時間となるよう、教職員一同、共に歩んでまいります。

藤田学園が掲げる「FUJITA VISION2030」の担い手である大学院生の皆様の研鑽が実を結ぶことを切に願っております。

FUJITA VISION2030 その時、いちばん動ける藤田学園へ

（研究）世界一独創的な研究拠点へ

知が混ざり合い、知が生まれる次世代ラボラトリーの実現

未来社会の期待に応える次世代研究の推進

独創的な研究に挑む次世代人材の育成

大学院保健学研究科の3方針

1. 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

保健学研究科 保健学専攻博士後期課程においては、次のような人材を求めます。

- (1) 保健衛生学を基盤とする各分野において、科学的根拠を探究し、様々な課題を解決するために研究を志す者。
- (2) 各自の研究テーマに関する新たな知見や技術の開発を通して真理を探究する熱意のある者。
- (3) 教育者、研究者、指導者を目指す志向力のある者。
- (4) 研究成果を広く社会に発信・実装し、保健衛生学の発展に寄与しようとする意欲の高い者

・性、人種、宗教、性的指向、社会経済的地位、身体能力の如何によって、入学に関する優先性が影響されることはありません。

・禁煙への取り組み

藤田医科大学では、人々の健康を守る医療職者を育成する大学として、入学者は喫煙しないことを約束できる方とします。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

保健学研究科 保健学専攻博士後期課程にあつては、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるために、以下の方針に基づいて、基礎および専門的能力、また各分野の連携・融合を高める講義・演習、および特別研究を体系的に科目配当し、編成している。

- (1) 必修の共通科目は、各分野に共通する重要な保健衛生学の概念を広く学び、教育者、研究者、高度実践の指導者としての学術基盤を育成する。
- (2) 専攻分野に関する科目である特論と演習は、保健医療専門職としての知識や技術をさらに深め、課題探究と解決能力を育成する。
- (3) 特別研究は、先端的新知見の探究や、理論構築及び技術開発における課題の解決を通して、国際誌に投稿可能な論文作成能力を育成する。
- (4) 基礎および臨床研究の知見に基づき、また各分野の連携・融合を通して先進的な理論と実践を創発し、広く社会に発信・実装できる能力を育成する。

3. 卒業認定基準（ディプロマ・ポリシー）

保健学研究科 保健学専攻博士後期課程にあつては、所定の年限以上在籍して、教育の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、論文審査及び最終試験において、以下の能力を身につけていることを学位認定の基準とします。

- (1) 先行研究を基盤として独創的な発想で分析し、問題提起する能力。
- (2) 問題解決に向けて適切な解析方法や分析手法を選択実行する能力。
- (3) 各分野の専門性を高める発見や新たな技法、理論を提案する能力。
- (4) 独創的な学究精神を堅持して真理を探究し、個性豊かな研究を推進する能力。

修得単位数

1) 看護学領域、リハビリテーション科学領域

授 業 科 目	修 得 単 位 数		備 考
	必 修	選 択	
共通科目	4 単位		4 単位以上
看護学分野	6 単位	4 単位	各分野毎に 10 単位
リハビリテーション療法科学分野	6 単位	4 単位	
合 計	14 単位以上		

教育課程表

分野	科 目 名	単位数 (時間数)		1 年		2 年		3 年		備考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共通科目	保健科学概論	2 (30)		2						
	保健科学研究論	2 (30)			2					
看護学分野	保健看護融合科学特論		2 (30)	2						
	保健看護融合科学演習		2 (30)		2					
	保健看護融合科学特別研究	6 (180)			1	1	2	1	1	
リハビリテーション療法科学分野	リハビリテーション療法科学特論Ⅰ		2 (30)	2						
	リハビリテーション療法科学特論Ⅱ		2 (30)	2						
	リハビリテーション療法科学特論Ⅲ		2 (30)	2						
	リハビリテーション療法科学特論Ⅳ		2 (30)	2						
	リハビリテーション療法科学演習Ⅰ		2 (30)		2					
	リハビリテーション療法科学演習Ⅱ		2 (30)		2					
	リハビリテーション療法科学演習Ⅲ		2 (30)		2					
	リハビリテーション療法科学演習Ⅳ		2 (30)		2					
	リハビリテーション療法科学特別研究	6 (180)			1	1	2	1	1	

授業科目と科目担当者

分 野	授 業 科 目	単位数	時間数	科目担当者名
共通科目	保健科学概論	2	30	金田嘉清 須釜淳子 村山陵子 竹原君江 櫻井宏明 寺西利生
	保健科学研究論	2	30	金田嘉清 須釜淳子 櫻井宏明 寺西利生 村山陵子 竹原君江 山田晃司 稲本陽子 田辺茂雄 武田湖太郎 三吉友美子 小野木啓子 中村小百合 世古留美 三浦由佳
看護学分野	保健看護融合科学特論	2	30	須釜淳子 世古留美 村山陵子 中村小百合 竹原君江
	保健看護融合科学演習	2	30	須釜淳子 村山陵子 竹原君江
	保健看護融合科学特別研究	6	180	須釜淳子 村山陵子 竹原君江
リハビリテーション療法科学分野	リハビリテーション療法科学特論Ⅰ	2	30	金田嘉清 櫻井宏明 田辺茂雄
	リハビリテーション療法科学特論Ⅱ	2	30	金田嘉清 櫻井宏明 田辺茂雄
	リハビリテーション療法科学特論Ⅲ	2	30	寺西利生 稲本陽子 小野木啓子
	リハビリテーション療法科学特論Ⅳ	2	30	山田晃司 田辺茂雄 武田湖太郎
	リハビリテーション療法科学演習Ⅰ	2	30	金田嘉清 櫻井宏明 田辺茂雄
	リハビリテーション療法科学演習Ⅱ	2	30	金田嘉清 櫻井宏明 田辺茂雄
	リハビリテーション療法科学演習Ⅲ	2	30	寺西利生 稲本陽子 小野木啓子
	リハビリテーション療法科学演習Ⅳ	2	30	山田晃司 田辺茂雄 武田湖太郎
	リハビリテーション療法科学特別研究	6	180	金田嘉清 櫻井宏明 寺西利生 稲本陽子 小野木啓子 山田晃司 田辺茂雄 武田湖太郎

1. 【共通科目】

保健科学概論 (Introduction to Health Sciences)

専攻分野 Major Field	共通	学年 Grade	1 年	期 間 Semester	前期・後期
授業形態 Style	講義・演習	単位 Credits	2 単位	時間数 Hours	30 時間
授業方法 Class Methods	遠隔授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	かなだよしきよ す がまじゆん こ むらやまりよう こ たけはらきみ え さくらいひろあき てらにしとし お 金田嘉清(科目責任者)、須釜 淳 子、村山陵子、竹原君江、櫻井宏明、寺西利生				
科目概要 Course Aims	<p>医療施設内の看護、リハビリテーションの領域に留まることなく、医学、医療全般にわたる他分野を含めた最新の知見、情報をテーマとして講演会を開催する。医療施設外の衛生・保健学、保健・栄養学、人文社会科学の分野を中心に保健医療関連領域に社会学・心理学・福祉学の視点を加味しながら、病気予防や健康増進についての科学的研究視点を研究に応用できるよう医療人に必要な最新で高度な知識を学修する。</p> <p>また、現代は生活習慣病や環境に起因する疾病・障害、予防医学の重要性が高まっており、保健衛生学の必要性が高い。疾病の予防や健康の保持増進について保健統計、地域保健、母子保健、産業保健学、精神保健学、環境科学など、さまざまな視点からの保健衛生について学修する。また、それらのための環境づくりを研究し、疾病の要因がどこにあるのかを、心理的要因や生活環境にまで広げて解明し、健康障害をどう防止するかを追究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p>				
到達目標 Objectives	看護学、リハビリテーション療法学の研究トピックスについて、保健学に共通する知識や考え方を幅広く習得させ、質疑応答を行い、専門科目への研究基盤を築く。				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor
1	保健衛生に関わる理学療法士および作業療法士の現状と、教育環境、社会構造、問題点について解説する				金田嘉清
2	診療ガイドラインの目的ならびに作成法について具体例を提示しながら解説する				須釜淳子
3	リハビリテーション療法学における技能の標準化に向けた取り組みの実際と、客観的臨床能力試験の活用について解説する				櫻井宏明
4	活動の拡大を目指す場であるリハビリテーション病棟は、転倒の多く発生する病棟である。転倒危険度を減らしながら活動の量や範囲を拡大する手法について教授するとともに議論しながら、転倒危険度評価、マネジメント手法について学修する				寺西利生
5	多分野融合による看護ケアのエビデンス創出について解説する				村山陵子
6	糖尿病足病変からみる予防ケアの重要性について概説する				竹原君江
7-10	医療保健衛生学セミナーとして大学内外から著名な研究者を広く招聘し、講演会を4回／年開催する。質疑応答の時間を十分に確保し討議する。				金田嘉清
11-15	学内で行われる藤田学園医学会の特別講演(1回)及びシンポジウム(1回)、倫理セミナー・コンプライアンスセミナー・APRIN e ラーニングプログラム等(2回)、博士論文公開發表会(1回)に参加、視聴し最新で高度な知識を学修し、研究者としての基本的素養を身に付ける。				金田嘉清
評価法・基準 Grading Policies	受講態度(20%)と討論内容等(80%)から総合的に評価する。到達目標に達していない場合等、必要に応じて討論時またはメールによって十分なフィードバックを行う。				

教科書 Text Book	その都度配布する。	教材・参考書 Reference Book	必要な場合は適宜紹介する。
オフィス アワー Office Hour	金田:メールにて行う。 須釜:メールにて行う。 櫻井:メールにて行う。 寺西:メールにて行う。 村山:メールにて行う。 竹原:メールにて行う。	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	事前に各回のテーマについて30分程度の予習を行ない自身の考えをまとめて臨むこと。講義後には、配布資料を用いて60分ほど復習し、ノートにまとめること。	履修上の注意点 Notice for Students	

保健科学研究論 (Research Methodology in Health Sciences)

専攻分野 Major Field	共通	学年 Grade	1年	期 間 Semester	後期
授業形態 Style	講義・演習	単位 Credits	2 単位	時間数 Hours	30 時間
授業方法 Class Methods	遠隔授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	かなだ よしきよ すがまじゅんこ さくら い ひろあき てらにしとしお むらやまりようこ たけはらきみ え やまだ こうじ 金田嘉清(科目責任者)、須釜淳子、櫻井宏明、寺西利生、村山陵子、竹原君江、山田晃司、 いなもとようこ たなべしげお たけだ こ たらう みよしゆ み こ なかむらさ ゆり お の ぎけいこ せ こ る み 稲本陽子、田辺茂雄、武田湖太郎、三吉友美子、中村小百合、小野木啓子、世古留美、 みうら ゆ か 三浦由佳				
科目概要 Course Aims	病気やケガは医療機関で治療のための医療行為を受ける。しかし、早期に病気を発見し、治療を開始できたほうが経過は良好なことが多い。さらには、そもそも病気にかかりにくい環境を整え、健康を維持増進する方法を考えるも重要な視点である。病気の治療はもちろんのこと退院後、予防や健康の維持増進などシームレス医療について研究する。臨床現場の技術革新が進む中、ロボットや Information and Communication Technology (ICT)、Artificial Intelligence (AI) などのテクノロジーの有効活用が求められている。それらの研究開発、実証実験はもとより得られた臨床データから社会実装創成研究に応用する。実証データや最新の研究を、具体例を基に教授する。さらに、ディスカッションを通して保健医療分野の連携的な研究学び、各分野への活用・応用を図る。 (オムニバス方式／全15回)				
到達目標 Objectives	保健学領域 2 分野における最新の保健看護融合科学研究、運動制御計測科学研究、リハビリテーション教育科学研究などの知識及び技術を修得し、自分野の研究に活用できる能力を身につける。				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor
1	保健衛生に関わる理学療法士および作業療法士について、療法士教育の問題点とその対応策、教育学的研究について解説する				金田嘉清
2-3	システムティックレビューとメタ分析について診療ガイドラインのエビデンスとの関連から解説する				須釜淳子 三浦由佳
4	リハビリテーション療法科学における技能の標準化に向けた取り組みとしての、養成校学生、卒後療法士を対象とした教育学的研究の現状について解説する。				櫻井宏明
5	片麻痺患者の活動障害を評価する三次元動作解析法について学修する。また、片麻痺患者の歩行再建について機能障害の重症度、発症後経過、装具・補助具の使用も含めて方法論、アウトカムについて教授する。				寺西利生
6	超音波検査装置による看護ケアの拡がりについて実態調査からアルゴリズム開発と実証研究を例に解説する。				村山陵子
7	足白癬ケアにおける看護理工学研究について実態調査から、ケア開発、実証研究を例に概説する。				竹原君江
8	脳海馬の神経細胞の形態学的変化、受容体と神経伝達物質・神経ネットワーク、シナプスの長期増強 (LTP) と長期抑圧 (LTD) について運動による老化に伴う認知機能の改善を分子メカニズムから解説する。				山田晃司
9	摂食嚥下障害患者に対する活動再建のための治療指向的評価法について従来法から最新法まで、それぞれの特徴や要点や研究状況を解説する				稲本陽子
10	リハビリテーションに用いる様々な活動支援機器について、その分類、それぞれの特徴や要点、研究の実施状況について解説する。				田辺茂雄

11	AI アルゴリズムの基礎となっている回帰・分類や機械学習の手法について、具体的なデータ例を用いて概説する。	武田湖太郎	
12	尺度開発の方法と自己調整学習研究の動向を解説する。	三吉友美子	
13	保健医療における多職種連携に関する研究の動向を概説する。	中村小百合	
14	生活期リハビリテーションの実践と課題について概説する。	小野木啓子	
15	健康施策から見た生活習慣病の発症予防について、我が国の健康施策や社会科学的視点と方法論を概説する。	世古留美	
評価法・基準 Grading Policies	各授業における受講態度(30%)、教員との討論内容等(70%)から総合的に評価する。 また、到達目標に達していないと判定される項目については後日、メールでフィードバックする。		
教科書 Text Book	その都度配布する。	教材・参考書 Reference Book	必要な場合は適宜紹介する。
オフィス アワー Office Hour	金田:メールにて行う。 須釜:メールにて行う。 櫻井:メールにて行う。 寺西:メールにて行う。 村山:メールにて行う。 竹原:メールにて行う。 山田:メールにて行う。 稲本:メールにて行う。 田辺:メールにて行う。 武田:メールにて行う。 三吉:メールにて行う。 中村:メールにて行う。 小野木:メールにて行う。 世古:メールにて行う。 三浦:メールにて行う。	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	事前に各回のテーマについて 30 分程度の予習を行ない自身の考えをまとめて臨むこと。講義後には、配布資料を用いて 60 分ほど復習し、ノートにまとめること。	履修上の注意点 Notice for Students	

2. 【看護学領域】

保健看護融合科学特論

(Advanced Topic in Health Care and Nursing Integrated Sciences)

専攻分野 Major Field	看護学分野	学年 Grade	1 年	期 間 Semester	前期
授業形態 Style	講義	単位 Credits	2 単位	時間数 Hours	30 時間
授業方法 Class Methods	遠隔授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	すがま じゅんこ 須釜 淳子(科目責任者)、せ ころ み 世古留美、むらやま りょうこ 村山 陵子、なかむら さ ゆ り 中村 小百合、たけはら きみえ 竹原 君江				
科目概要 Course Aims	人々の健康、取りまく環境、身体的・精神的・心理的・社会的影響について、理論をとおして地域で生活する人々の健康の保持・増進、健康回復を考える。また、様々な理論、研究デザイン、研究方法を用いて、医療、保健活動にエビデンス・ベースト・プラクティスを実装・普及させる実装科学の基本を概説する。 (オムニバス方式／全15回)				
到達目標 Objectives	1. 人々の健康、取りまく環境、身体的・精神的・心理的・社会的影響について、説明できる。 2. 上記で生じた問題について理論をとおして解決策を考え説明できる。 3. 医療、保健活動にエビデンス・ベースト・プラクティスを実装・普及させる実装科学の基本を説明できる。				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor
1	実装科学とは				須釜淳子
2	文献から学ぶ実装科学の方法				須釜淳子
3	実装科学の理論とフレームワーク				須釜淳子
4	実装科学のストラテジー				須釜淳子
5	ヘルスデザインシンキングの原則				須釜淳子
6	ヘルスデザインシンキングの方法				須釜淳子
7	ヘルスデザインシンキングのケーススタディ				須釜淳子
8	地域で生活する人々の現状と課題、保健医療福祉に関する政策				世古留美
9	地域で生活する人々の健康保持増進の理論				世古留美
10	患者理解に必要な看護理論、理論の看護実践への活用				中村小百合
11	理論と看護研究				中村小百合
12	看護理工学的手法に基づくリバーstransレーショナルリサーチ				村山陵子
13	医療・看護におけるイノベーション				村山陵子
14	看護研究と社会情勢				竹原君江
15	看護研究と看護のパラダイムシフト				竹原君江
評価法・基準 Grading Policies	課題レポート、ゼミ資料、試問(70%)と受講態度(30%)で評価する。 目標の理解度を計るため、それぞれに対するレポート、資料作成等の課題、または試問を課し、実施後に解説を行う。				

教科書 Text Book	ボン・ク、エレン・ラプトン著、百合田香 織訳、「ヘルスデザインシンキング」、 BNN、ISBN978-4-8025 -1194-0	教材・参考書 Reference Book	D.F.ポーリット&C.T.ベック著、近藤潤子 監訳、「看護研究 原理と方法」第2版、 医学書院、ISBN978-4-260-00526-5 真田弘美・森武俊編、「看護理工学」、東 京大学出版会、ISBN978-4-13-062414-5
オフィス アワー Office Hour	全教員授業後の30分間オンラインで 対応	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	指定したテーマを1時間程度、事前に 予習すること。また、演習後復習を1 時間程度行うこと。何事にも興味を持 ち、積極的態で臨むこと。	履修上の注意点 Notice for Students	授業で使用する資料は Teams に事前に アップロードすること

保健看護融合科学演習

(Seminars in Health Care and Nursing Integrated Sciences)

専攻分野 Major Field	看護学分野	学年 Grade	1 年	期 間 Semester	後期
授業形態 Style	講義	単位 Credits	2 単位	時間数 Hours	30 時間
授業方法 Class Methods	遠隔授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	す が ま じゅんこ				

<p>オフィス アワー Office Hour</p>	<p>指導教員が授業後の 30 分間オンラインまたはメールにて対応</p>	<p>連絡先 Contact</p>	
<p>準備学習 Preparation of study</p>	<p>指定したテーマを 1 時間程度、事前に予習すること。また、演習後復習を 1 時間程度行うこと。何事にも興味を持ち、積極的態で臨むこと。</p>	<p>履修上の注意点 Notice for Students</p>	<p>授業で使用する資料は Teams に事前にアップロードすること</p>

保健看護融合科学研究

(Doctoral Research in Health Care and Nursing Integrated Sciences)

専攻分野 Major Field	看護学分野	学年 Grade	1, 2, 3年	期 間 Semester	通年
授業形態 Style	演習	単位 Credits	6 単位	時間数 Hours	180 時間
授業方法 Class Methods	遠隔または対面式授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	すがま じゅん こ むらやま りょう こ たけはら きみ え 須釜 淳子、村山 陵子、竹原 君江				
科目概要 Course Aims	<p>特別研究では、看護学におけるエビデンスの構築とその社会実装に関する研究を行い、博士論文を作成する。その中で、研究テーマの選択、先行研究のレビュー、研究計画の立案、実験・調査、考察という一連の論文作成過程を学ぶ。また、博士論文の作成を通じて、科学者の良心・倫理観、研究に対する姿勢、独創的な発想、研究のありかたを学ぶ。</p> <p>各科目担当教員の主要研究テーマは以下のとおりである。</p> <p>(須釜 淳子)</p> <p>1. 慢性創傷、皮膚障害の予防・管理に関わるエビデンスの構築とその社会実装に関する研究</p> <p>2. 日常生活援助技術に関わるエビデンスの構築とその社会実装に関する研究</p> <p>3. チーム医療における看護の役割と機能に関する研究</p> <p>(村山 陵子)</p> <p>1. エビデンスのある看護技術の創生と社会実装のためのシステム構築に関する研究</p> <p>2. 看護技術普及のための教育プログラム開発(教材開発・人材育成を含む)と社会実装に関する研究</p> <p>(竹原 君江)</p> <p>1. 看護理工学的手法を用いた糖尿病足潰瘍予防ケア・アセスメント技術開発と社会実装に関する研究</p> <p>2. 臨床における研究シーズからアドバンストな新しい看護ケアを生み出し、社会実装する(広く臨床に還元する)までの一連あるいはその一部に関する研究</p> <p>3. 看護職の働く環境や教育、患者教育に関する研究</p>				
到達目標 Objectives	<p>1. 研究課題を決め、関連文献を調査できる。</p> <p>2. 研究推進の骨格を決め、研究手法を会得し研究を実施できる。</p> <p>3. 研究結果の解釈と考察が論理立ててできる。</p> <p>4. 博士論文を作成できる。</p>				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor
1-10 (1 年次)	先行研究を検討・整理し国内外の研究動向を理解、研究課題の設定と研究計画書の立案、疫学・臨床研究等倫理審査委員会、組換え DNA 実験安全委員会、動物実験委員会への審査申請書の作成を行う。				各指導教員
11-15 (1 年次)	研究計画審査及び疫学・臨床研究等倫理審査委員会、組換え DNA 実験安全委員会、動物実験委員会への審査を受けて、研究準備をすすめ、研究活動を展開する。				
16-60 (2 年次)	研究計画に即したデータ収集・調査・実験、データ解析、研究結果に関する討議、データの解釈と評価、関連する文献を用いた考察を行う。学術論文を作成し、専門の学術雑誌へ投稿する。				

61-90 (3 年次)	研究活動を継続し研究内容を発展させ、成果をまとめて学位論文の作成を行う。		各指導教員
長期履修 授業計画	長期履修学生は、履修期間に応じて研究指導教員と相談し、授業計画を立てる。		
評価法・基準 Grading Policies	課題レポート、ゼミ資料、試問 (70%)と受講態度 (30%)で評価する。 目標の理解度を計るため、それぞれに対するレポート、資料作成等の課題、または試問を課し、実施後に解説を行う。ただし、分野合同研究セミナーへの参加を必須とする。		
教科書 Text Book	なし	教材・参考書 Reference Book	なし
オフィス アワー Office Hour	指導教員が授業後の 30 分間オンラインまたはメールにて対応	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	指定したテーマを 30 分程度、事前 に予習すること。また、演習後復習を 1 時間程度行うこと。何事にも興味を持 ち、積極的態で臨むこと。	履修上の注意 点 Notice for Students	ノートの編集は、手書きでもパソコンを用 いてもよい。持ち物は指定がない場合は 特になし。

3. 【リハビリテーション科学領域】

リハビリテーション療法科学特論I(リハビリテーション教育科学)

Advanced Topic in Rehabilitation Therapy Sciences I (Rehabilitation Educational Sciences)

専攻分野 Major Field	リハビリテーション療法科学分野	学年 Grade	1 年	期 間 Semester	前期
授業形態 Style	講義	単位 Credits	2 単位	時間数 Hours	30 時間
授業方法 Class Methods	遠隔授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	かなだ よしきよ さくらい ひろあき たなべ しげお 金田 嘉清(科目責任者)、櫻井 宏明、田辺 茂雄				
科目概要 Course Aims	リハビリテーションに携わる理学療法士および作業療法士の教育に関連する観点としては、養成校の学生を対象とした座学、演習、および臨床実習などからなる卒前教育、新人および若手療法士を対象とした卒後研修、それらを指導するための臨床指導者研修、組織を運営する管理運営者研修に分類される。本講義では、療法士教育に携わる者として理解しておくべき事項について教授する。 (オムニバス方式／全15回)				
到達目標 Objectives	1. 日本における理学療法士教育の現状と問題点について説明できる。 2. 臨床技能標準化の技法と OSCE の信頼性・妥当性、効果について説明できる。 3. 学生臨床実習、新人理学療法士養成、臨床実習指導者養成について説明できる。				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor
1	療法士の現状と、教育環境、社会構造、問題点				金田嘉清
2	療法士の関連法規、社会保障、職域				金田嘉清
3	リハビリテーションの定義や諸領域、関連職種 指定規則、コンプライアンス、多職種連携				金田嘉清
4	良好なコミュニケーション、第三者による外部評価				金田嘉清
5	初等中等教育と若者の心理的特徴(発達障害含む)				櫻井宏明
6	教育の本質、目的、歴史、教育課程、制度				櫻井宏明
7	学習者心理、情報活用、教授法、学習理論				櫻井宏明
8	教育課程、授業設計				櫻井宏明
9-10	臨床実習指導、コーチングとティーチング				櫻井宏明
11-12	良好なコミュニケーション、第三者による外部評価				櫻井宏明
13	研究方法、研究デザイン、統計学				田辺茂雄
14	教育の評価の意義、種類、方法				田辺茂雄
15	授業評価、成績評価、試験問題作成、臨床実習の評価				田辺茂雄
評価法・基準 Grading Policies	講義中のディスカッション(30%)、レポート(70%)から、科目責任者(金田)が総合的に評価する。適宜課題について到達目標に達していない点を講義の中でフィードバックする。				
教科書 Text Book	その都度資料を配布する。		教材・参考書 Reference Book		

<p>オフィス アワー Office Hour</p>	<p>金田嘉清 大学 8-1F-106 月曜日 12:00-13:00 メールでの質問を受け付けます。 櫻井宏明 大学 8-1F-106 月曜日 12:00-13:00 メールでの質問を受け付けます。 田辺茂雄 大学 8-1F-112 月曜日 12:10-13:00 メールでの質問を受け付けます。</p>	<p>連絡先 Contact</p>	
<p>準備学習 Preparation of study</p>	<p>事前に各回のテーマについて 30 分程度 の予習を行い自身の考えをまとめて 臨む。講義後には配布資料を用いて 60 分ほど復習し、ノートにまとめる。</p>	<p>履修上の注意点 Notice for Students</p>	

リハビリテーション療法科学特論 II (リハビリテーション教育科学)

Advanced Topic in Rehabilitation Therapy Sciences II (Rehabilitation Educational Sciences)

専攻分野 Major Field	リハビリテーション療法科学分野	学年 Grade	1 年	期 間 Semester	前期
授業形態 Style	講義	単位 Credits	2 単位	時間数 Hours	30 時間
授業方法 Class Methods	遠隔授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	かなだ よしきよ さくらい ひろあき たなべ しげお 金田 嘉清(科目責任者)、櫻井 宏明、田辺 茂雄				
科目概要 Course Aims	本講義では、リハビリテーション療法科学特論Ⅰで学修した事項について、それぞれのテーマに合わせて自ら調べ、その結果を批判的に吟味することによって知識の定着水準を高める。加えて、その内容について他者と議論することで理解を深め、同時に教授方法の工夫について学修する。 (オムニバス方式／全15回)				
到達目標 Objectives	1. 日本における療法士教育の現状と問題点、その他関連法規等について説明できる。 2. 教育の本質や目的、学習心理等について説明できる。 3. 教育課程や、授業設定について説明できる。 4. 学生臨床実習、新人理学療法士養成、臨床実習指導者養成について説明できる。 5. 適切な研究・統計処理手法について説明できる。				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor
1	療法士の現状と、教育環境、社会構造、問題点について議論する				金田嘉清
2	療法士の関連法規、社会保障、職域について議論する				金田嘉清
3	リハビリテーションの定義や諸領域、関連職種について議論する				金田嘉清
4	指定規則、コンプライアンス、多職種連携について議論する 良好なコミュニケーション、第三者による外部評価について議論する				金田嘉清
5	初等中等教育と若者の心理的特徴(発達障害含む)について議論する				櫻井宏明
6	教育の本質、目的、歴史、教育課程、制度について議論する				櫻井宏明
7	学習者心理、情報活用、教授法、学習理論について議論する				櫻井宏明
8	教育課程、授業設計について議論する				櫻井宏明
9-10	臨床実習指導者論について議論する				櫻井宏明
11-12	臨床実習施設について議論する				櫻井宏明
13	研究方法、研究デザイン、統計学について議論する				田辺茂雄
14	教育の評価の意義、種類、方法について議論する				田辺茂雄
15	授業評価、成績評価、試験問題作成について議論する 臨床実習の評価について議論する				田辺茂雄
評価法・基準 Grading Policies	講義中のディスカッション(30%)、レポート(70%)から、科目責任者(金田)が総合的に評価する。適宜課題について到達目標に達していない点を講義の中でフィードバックする。				
教科書 Text Book	その都度資料を配布する。		教材・参考書 Reference Book		

<p>オフィス アワー Office Hour</p>	<p>金田嘉清 大学 8-1F-106 月曜日 12:00-13:00 メールでの質問を受け付けます。 櫻井宏明 大学 8-1F-106 月曜日 12:00-13:00 メールでの質問を受け付けます。 田辺茂雄 大学 8-1F-112 月曜日 12:10-13:00 メールでの質問を受け付けます。</p>	<p>連絡先 Contact</p>	
<p>準備学習 Preparation of study</p>	<p>事前に各回のテーマについて 30 分程度 の予習を行い自身の考えをまとめて 臨む。講義後には配布資料を用いて 60 分ほど復習し、ノートにまとめる。</p>	<p>履修上の注意点 Notice for Students</p>	

リハビリテーション療法科学特論 III(生体情報・治療システム科学)

Advanced Topic in Rehabilitation Therapy Sciences III

(Bioinformatics and Therapeutic Systems Sciences)

専攻分野 Major Field	リハビリテーション療法科学分野	学年 Grade	1 年	期 間 Semester	前期
授業形態 Style	講義	単位 Credits	2 単位	時間数 Hours	30 時間
授業方法 Class Methods	遠隔授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	てらにし としお いなもと ようこ お の ぎ け い こ 寺西 利生(科目責任者)、稲本 陽子、小野木 啓子				
科目概要 Course Aims	医学的リハビリテーションの中心を担う活動障害に対するリハビリテーション評価、そして治療について教授する。また、広く生体情報を解析し、治療法の分析・検討についても学修する。国内外の文献調査によって最新の知見を学修するとともに問題点を整理し、科学的根拠に基づく評価およびアプローチについて検討する。 (オムニバス方式／全15回)				
到達目標 Objectives	1. 筋力増強の理論を説明できる。 2. 歩行分析に用いる生体情報の分析の方法を説明できる。 3. 活動再建のための方法論とその対応について説明できる。 4. 摂食嚥下評価の解析法を説明できる。 5. 加齢に伴う機能の変化とその対応について説明できる。 6. リハビリテーションにおける栄養管理の重要性を説明できる。				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor
1	筋力増強練習の方法論				寺西利生
2	バランス評価とバランス練習				寺西利生
3	歩行評価と歩行練習				寺西利生
4	生体情報の解析法				寺西利生
5	治療法の分析・検討				寺西利生
6	活動再建のための方法論				稲本陽子
7	支援システムを用いた治療的学習の方法論				稲本陽子
8	摂食嚥下治療指向的評価				稲本陽子
9	画像評価の解析法				稲本陽子
10	摂食嚥下の要素／課題練習				稲本陽子
11	日常生活活動自立度および介護度の評価				小野木啓子
12-13	栄養状態の評価とリハビリテーション				小野木啓子
14-15	加齢に伴う認知機能・心理の変化に対する評価				小野木啓子
評価法・基準 Grading Policies	講義中のディスカッション(30%)、レポート(70%)から、科目責任者が総合的に評価する。目標の理解度を計るため、試問またはレポートを課す。				

教科書 Text Book	その都度資料を配布する。	教材・参考書 Reference Book	
オフィス アワー Office Hour	寺西利生 大学 8-7F-704 メールでの質問を受け付けます。 稲本陽子 大学 8-7F-703 メールでの質問を受け付けます。 小野木啓子 大学 8-7F -708 メールでの質問を受け付けます。	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	事前に各回のテーマについて 30 分程度の予習を行い自身の考えをまとめて臨む。講義後には配布資料を用いて 60 分ほど復習し、ノートにまとめる。	履修上の注意点 Notice for Students	ノートの編集は手書きでもパソコンを用いてもよい。毎回、自身の PC を持参のこと。何事にも興味をもち、積極的態で臨むこと。

リハビリテーション療法科学特論 IV (運動制御計測科学)

Advanced Topic in Rehabilitation Therapy Sciences IV (Motor Control Instrumentation Sciences)

専攻分野 Major Field	リハビリテーション療法科学分野	学年 Grade	1 年	期 間 Semester	前期
授業形態 Style	講義	単位 Credits	2 単位	時間数 Hours	30 時間
授業方法 Class Methods	遠隔授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	やまだ こうじ たなべ しげお たけだ こたろう 山田 晃司(科目責任者)、田辺 茂雄、武田 湖太郎				
科目概要 Course Aims	リハビリテーションの対象となる活動や運動について、その制御や回復にかかわる先行研究を概括するための実践的な方法を学ぶとともに、臨床的・解剖学的・生理学的な視点からの批判的な討議をとおして、最新知見についての理解を深める。また研究遂行における計測機器・治療機器の概念、生体情報の計測法、計測データの信号処理法、統計解析手法について、実例を用いた講義・討議によって理解を深めるとともに、実装手段としてのプログラミングについても学修する。 (オムニバス方式／全15回)				
到達目標 Objectives	1. 生体計測、リハビリテーション工学についての研究動向と最新知見を説明できる。 2. 論文の方法、結果、考察を検証し、論評することができる。 3. 適切な図表・スライドを作成して研究内容を発表できる。 4. 適切な統計処理手法を選び、実施することができる。				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor
1	論文の位置づけと最新知見のサーベイ				武田湖太郎
2	論文構成の把握と批判的視点による読解				武田湖太郎
3	先行研究をまとめることによる研究動向の把握				武田湖太郎
4	解剖学的視点からの計測と評価				山田晃司
5	生理学的視点からの計測と評価				山田晃司
6	生化学的視点からの計測と評価				山田晃司
7-8	分子生物学的視点からの計測と評価				山田晃司
9	リハビリテーションにおける介入・計測機器の概念				田辺茂雄
10	生体計測機器を用いたデータ取得と信号処理法				田辺茂雄
11	運動制御研究に用いられる統計解析手法				田辺茂雄
12	生体計測のためのプログラミング言語(概念)				田辺茂雄
13	生体計測のためのプログラミング(実装)				田辺茂雄
14	生体の信号処理・統計処理のためのプログラミング言語(概念とアルゴリズム)				武田湖太郎
15	生体の信号処理・統計処理のためのプログラミング(実装)				武田湖太郎
評価法・基準 Grading Policies	講義中のディスカッション(30%)、レポート(70%)から、科目責任者が総合的に評価する。目標の理解度を計るため、試問またはレポートを課す。				

教科書 Text Book	その都度資料を配布する。	教材・参考書 Reference Book	
オフィス アワー Office Hour	山田晃司 大学 8-7F-707 講義日随時 田辺茂雄 大学 8-1F-112 講義日随時 武田湖太郎 七栗記念病院 講義日随時	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	事前に各回のテーマについて30分程度の予習を行い自身の考えをまとめて臨む。講義後には配布資料を用いて60分ほど復習し、ノートにまとめる。	履修上の注意点 Notice for Students	

リハビリテーション療法科学演習 I(リハビリテーション教育科学)

Seminars in Rehabilitation Therapy Sciences I (Rehabilitation Educational Sciences)

専攻分野 Major Field	リハビリテーション療法科学分野	学年 Grade	1 年	期 間 Semester	後期
授業形態 Style	講義	単位 Credits	2 単位	時間数 Hours	30 時間
授業方法 Class Methods	遠隔授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	かなだ よしきよ さくらい ひろあき たなべ しげお 金田 嘉清(科目責任者)、櫻井 宏明、田辺 茂雄				
科目概要 Course Aims	高度化したリハビリテーション、多様化した患者の要望に対応できる理学療法士および作業療法士の養成に向けた療法士教育について、効果的な教育手法を明らかにするために、先行研究を調査し、整理した上でまとめ、解釈をする技能について学修する。加えて、療法士教育に関する研究を行うために必要な各種統計手法についても、演習を通じて学修する。研究着想、計画、実施、統計、考察までの一連の過程について、先行研究を読み解いた後、議論の中で解説を加えることで、汎用性の高い基本的な技能を学修する。 (オムニバス方式／全15回)				
到達目標 Objectives	1. 日本における理学療法士教育の問題点とその対応策を説明できる。 2. OSCE を用いた理学療法士の臨床技術能力を説明できる。 3. 適切な統計処理手法を選び、実施し、解釈することができる。				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor
1-4	日本における療法士教育の問題点とその対応策				金田嘉清
5-6	臨床実習指導者の養成における実習内容				櫻井宏明
7-8	大学教員と実習指導者との教育指導体制				櫻井宏明
9-10	理学療法士および作業療法士の技能の標準化				櫻井宏明
11-12	客観的臨床能力試験				櫻井宏明
13	養成校学生を対象とした教育学的研究				田辺茂雄
14	卒後療法士を対象とした教育学的研究				田辺茂雄
15	療法士教育研究に必要な統計解析手法				田辺茂雄
評価法・基準 Grading Policies	講義中のディスカッション(30%)、レポート(70%)から、科目責任者が総合的に評価する。適宜課題について到達目標に達していない点を講義の中でフィードバックする。				
教科書 Text Book	その都度資料を配布する。		教材・参考書 Reference Book		
オフィス アワー Office Hour	金田嘉清 大学 8-1F-106 月曜日 12:00-13:00 メールでの質問を受け付けます。 櫻井宏明 大学 8-1F-106 月曜日 12:00-13:00 メールでの質問を受け付けます。 田辺茂雄 大学 8-1F-112 月曜日 12:10-13:00 メールでの質問を受け付けます。		連絡先 Contact		

<p>準備学習 Preparation of study</p>	<p>事前に各回のテーマについて 30 分程度の予習を行い自身の考えをまとめて臨む。講義後には配布資料を用いて 60 分ほど復習し、ノートにまとめる。</p>	<p>履修上の注意点 Notice for Students</p>	
--	---	--	--

リハビリテーション療法科学演習 II (リハビリテーション教育科学)

Seminars in Rehabilitation Therapy Sciences II (Rehabilitation Educational Sciences)

専攻分野 Major Field	リハビリテーション療法科学分野	学年 Grade	1 年	期 間 Semester	後期
授業形態 Style	講義	単位 Credits	2 単位	時間数 Hours	30 時間
授業方法 Class Methods	遠隔授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	かなだ よしきよ さくらい ひろあき たなべ しげお 金田 嘉清(科目責任者)、櫻井 宏明、田辺 茂雄				
科目概要 Course Aims	先進的かつ効果的な療法士教育を自ら学修するため、テーマに基づいて文献の調査を行い、まとめることで得られた知見、今後の課題を明確にできる技能を養う。加えて、他者の発表に対して批判的な視点を持ちながらも建設的に議論することで、合理的な思考法を身につける。また、最新の英語文献の抄読を通じて、自身の研究テーマに関連する知識を深めると同時に、研究手法や解析、文章構成力なども討議を通して学修する。抄読した文献の周辺知識を能動的に深く調べ、自ら問題の発見と解決策を創造することで、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力が獲得できるように、演習を行う。 (オムニバス方式／全15回)				
到達目標 Objectives	1. 日本における療法士教育の問題点とその対応策を説明できる。 2. 臨床実習について説明できる。 3. 学生教育について説明できる。 4. 卒後療法士の教育・研修について説明できる。				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule			担当教員 Instructor	
1-4	日本における療法士教育の問題点			金田嘉清	
5-8	臨床実習			櫻井宏明	
9-12	学生教育			櫻井宏明	
13-15	卒後療法士の教育・研修			田辺茂雄	
評価法・基準 Grading Policies	講義中のディスカッション(30%)、レポート(70%)から、科目責任者が総合的に評価する。適宜課題について到達目標に達していない点を講義の中でフィードバックする。				
教科書 Text Book	その都度資料を配布する。		教材・参考書 Reference Book		
オフィス アワー Office Hour	金田嘉清 大学 8-1F-106 月曜日 12:00-13:00 メールでの質問を受け付けます。 櫻井宏明 大学 8-1F-106 月曜日 12:00-13:00 メールでの質問を受け付けます。 田辺茂雄 大学 8-1F-112 月曜日 12:10-13:00 メールでの質問を受け付けます。		連絡先 Contact		

<p>準備学習 Preparation of study</p>	<p>事前に各回のテーマについて 30 分程度の予習を行い自身の考えをまとめて臨む。講義後には配布資料を用いて 60 分ほど復習し、ノートにまとめる。</p>	<p>履修上の注意点 Notice for Students</p>	
--	---	--	--

リハビリテーション療法科学演習 III(生体情報・治療システム科学)

Seminars in Rehabilitation Therapy Sciences III

(Bioinformatics and Therapeutic Systems Sciences)

専攻分野 Major Field	リハビリテーション療法科学分野	学年 Grade	1 年	期 間 Semester	後期
授業形態 Style	講義	単位 Credits	2 単位	時間数 Hours	30 時間
授業方法 Class Methods	遠隔授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	てらにし としお いなもと ようこ おのぎ けいこ 寺西 利生(科目責任者)、稲本 陽子、小野木 啓子				
科目概要 Course Aims	リハビリテーション療法科学特論 III (生体情報・治療システム科学) において学修したリハビリテーション評価、そして広く生体情報を解析し、治療に関する基礎的あるいは臨床的な分析・検討を、文献レビューを通して、最新の知見を調査し、今後、臨床において要求される研究の方向性を議論し展望する。 (SGD方式／全15回)				
到達目標 Objectives	1. リハビリテーション評価についての研究動向と最新知見を説明できる。 2. リハビリテーション療法についての研究動向と最新知見を説明できる。				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor
1-15	<ul style="list-style-type: none">筋力増強練習のレビューと要求される研究の方向性バランス練習のレビューと要求される研究の方向性歩行評価のレビューと要求される研究の方向性嚥下練習における運動学習のレビューと要求される研究の方向性最新の治療指向的評価(嚥下 CT、マノメトリー)のレビューと要求される研究の方向性課題練習における姿勢調整, 嚥下手技のレビューと要求される研究の方向性日常生活活動自立度および介護度のレビューと要求される研究の方向性栄養状態の評価のレビューと要求される研究の方向性加齢に伴う認知機能・心理面の変化のレビューと要求される研究の方向性生体情報の解析を通して病態の経時的変化と治癒予測の方向性				寺西利生 稲本陽子 小野木啓子
評価法・基準 Grading Policies	講義中のディスカッション(30%)、レポート(70%)から、科目責任者が総合的に評価する。目標の理解度を計るため、試問またはレポートを課す。				
教科書 Text Book	その都度資料を配布する。		教材・参考書 Reference Book		

<p>オフィス アワー Office Hour</p>	<p>寺西利生 大学 8-7F-704 メールでの質問を受け付けます。 稲本陽子 大学 8-7F-703 メールでの質問を受け付けます。 小野木啓子 大学 8-7F -708 メールでの質問を受け付けます。</p>	<p>連絡先 Contact</p>	
<p>準備学習 Preparation of study</p>	<p>事前に各回のテーマについて 30 分程度 の予習を行い自身の考えをまとめて 臨む。講義後には配布資料を用いて 60 分ほど復習し、ノートにまとめる。</p>	<p>履修上の注意点 Notice for Students</p>	<p>ノートの編集は手書きでもパソコンを 用いてもよい。毎回、自身の PC を持 参のこと。何事にも興味をもち、積極 的態度で臨むこと。</p>

リハビリテーション療法科学演習 IV (運動制御計測科学)

Seminars in Rehabilitation Therapy Sciences IV (Motor Control Instrumentation Sciences)

専攻分野 Major Field	リハビリテーション療法科学分野	学年 Grade	1 年	期 間 Semester	後期
授業形態 Style	講義	単位 Credits	2 単位	時間数 Hours	30 時間
授業方法 Class Methods	遠隔授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	やまだ こうじ たなべ しげお たけだ こたろう 山田 晃司(科目責任者)、田辺 茂雄、武田 湖太郎				
科目概要 Course Aims	本演習は、運動制御や機能回復、生体計測、リハビリテーション工学などに関連する最新の英語原著論文、英語総説論文を講読し、内容について担当教員と討議する。討議する中で、運動や機能評価の生理学的意味をはじめとした背景、生体情報の信号処理、統計解析手法などの方法、そして結果の解釈について深く理解し、自らの研究に生かす。討議の資料作成を通して図表の作成方法など研究成果発表に必要な技術を学修することで、汎用性の高いテクニックを身につける。 (SGD方式／全15回)				
到達目標 Objectives	1. 生体計測、リハビリテーション工学についての研究動向と最新知見を説明できる。 2. 論文の方法、結果、考察を検証し、論評することができる。 3. 適切な図表・スライドを作成して研究内容を発表できる。 4. 適切な統計処理手法を選び、実施することができる。				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule			担当教員 Instructor	
1-6	運動制御や機能回復に関する最新の英語文献の講読と討議			山田晃司 田辺茂雄 武田湖太郎	
7-8	リハビリテーション工学に関する最新の英語文献の講読と討議			山田晃司 武田湖太郎	
9-15	生体計測に関する最新の英語論文の講読と討議			山田晃司 田辺茂雄 武田湖太郎	
評価法・基準 Grading Policies	講義中のディスカッション(30%)、レポート(70%)から、科目責任者が総合的に評価する。目標の理解度を計るため、試問またはレポートを課す。				
教科書 Text Book	その都度資料を配布する。		教材・参考書 Reference Book		
オフィス アワー Office Hour	山田晃司 大学 8-7F-707 講義日随時 田辺茂雄 大学 8-1F-112 講義日随時 武田湖太郎 七栗記念病院 講義日随時		連絡先 Contact		
準備学習 Preparation of study	事前に各回のテーマについて30分程度の予習を行い自身の考えをまとめて臨む。講義後には配布資料を用いて60分ほど復習し、ノートにまとめる。		履修上の注意点 Notice for Students		

リハビリテーション療法科学特別研究

Doctoral Research in Rehabilitation Therapy Sciences

専攻分野 Major Field	リハビリテーション療法科学分野	学年 Grade	1, 2, 3 年	期 間 Semester	通年
授業形態 Style	演習	単位 Credits	6 単位	時間数 Hours	180 時間
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	かなだ よしきよ さくらい ひろあき てらにし としお いなもと ようこ おのぎ けいこ やまだ こうじ たなべ しげお 金田 嘉清、櫻井 宏明、寺西 利生、稲本 陽子、小野木 啓子、山田 晃司、田辺 茂雄、 たけだ こたろう 武田 湖太郎				
科目概要 Course Aims	<p>リハビリテーション教育科学においては、チーム医療に貢献でき、高い指導能力を有する理学療法士および作業療法士の養成に向けた教育方法を研究対象とする。リハビリテーションの高度化、患者の要望の多様化を踏まえた、臨床技術教育と臨床実習の構築を検討する。また、臨床実習を効果的に実施するための、実習指導者の養成に関して検討する。さらに、養成校教員と実習指導者との連携を強化した新たな教育指導体制についても検討する。</p> <p>(金田嘉清) 療法士教育に関して、Evidence Based Medicine (EBM) の視点で研究する。加えて社会や街づくり、地域保健に関しても研究する。以下に研究指導テーマを示す。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 療法士教育と治療技術に関する研究2. 療法士の臨床実習指導に関する研究3. 学生教育、新人理学療法士教育、患者教育に関する研究4. 療法士における地域貢献に関する研究 <p>(櫻井宏明) 高い技術力、統率力、指導能力をもった療法士教育者の養成に関して研究する。以下に研究指導テーマを示す。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 療法士技術の客観的評価に関する研究2. 実習指導者の養成に関する研究3. 養成校および実習地の連携教育指導体制に関する研究4. 理学療法士および作業療法士の治療技術の標準化に関する研究5. 卒後療法士の生涯学修に関する研究 <p>生体情報・治療システム科学においては、生体情報を基に活動・介入・行動変容等、活動障害を対象とした実践科学、嚥下動態の運動学的解析、嚥下機能障害の特定、嚥下手技や練習法の精緻化をはかる。また、高齢化社会において急性期から生活期までシームレスな医療が必要とされている中、高齢者医療を日常生活活動自立度や栄養状態、認知機能、病態の経時的変化と症状改善や治癒予測に関する独創的な発想から研究指導を行う。</p> <p>(寺西利生) 活動障害を対象とした実践科学であるリハビリテーションの評価・介入は、臨床家および研究者の努力で日々進歩している。また、広く生体情報を解析し、治療に応用する。この特別研究では、活動・介入・行動変容をキーワードとして、博士論文を作成する。その中で、研究テーマの選択、先行研究のレビュー、研究計画の立案、実験、考察という一連の論文作成過程を学ぶ。また、博士論文の作成を通じて、科学者の良心、研究に対する姿勢、独創的な発想、研究のありかたを学ぶ。テーマは以下の 4 つに集約される。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 歩行評価・歩行再建に関する研究2. 痙縮の定量計測に関する研究3. 転倒予防・転倒危険度評価・患者マネジメントに関する研究4. リハビリテーション介入のタイムスタディと帰結に関する研究				

(稲本陽子)

「食」を再建する摂食嚥下リハビリテーションに関する研究を行い、博士論文を作成する。嚥下動態の運動学的解析や運動力学的解析にて嚥下の生理の解明、異常所見を引き起こす機能障害の特定、嚥下手技や練習法の精緻化をはかる。この過程をとおり、嚥下動態の解析方法の熟知と限界を理解すると同時に、研究法および論文作成方法、研究倫理を学ぶ。以下に具体的なテーマを示す。

1. 嚥下造影や嚥下 CT を用いた嚥下動態と運動調整理解に関する研究
2. 嚥下造影や嚥下 CT を用いた嚥下練習法の運動学的効果解明に関する研究
3. マノメトリーを用いた嚥下練習法の解明に関する研究

(小野木啓子)

高齢化社会において急性期から生活期まで切れ目のない医療が必要とされている。この特別研究では、高齢者医療をキーワードとして博士論文を作成する。その中で、研究テーマの選択、先行研究のレビュー、研究計画の立案、実験、考察という一連の論文作成過程を学ぶ。また、博士論文の作成を通じて、科学者の良心、研究に対する姿勢、独創的な発想、研究のありかたを学ぶ。テーマは以下の 3 つに集約される。

1. 高齢者の日常生活活動自立度と介護者の介護負担に関する研究
2. 高齢者の栄養状態とリハビリテーションに関する研究
3. 加齢に伴い変化する認知機能・心理への対応に関する研究

運動制御計測科学に関する研究においては、基礎研究から臨床応用まで運動制御、運動学習、リハビリテーション工学に関する研究を行う。具体的には、動作時の姿勢制御、治療的学習、リハビリテーションロボットなどについて疾患モデル動物および模擬患者での基礎的研究、患者での臨床研究を行う。それぞれ専門領域の学会、学術雑誌で発表し、社会に情報発信できる論文指導を行う。

(山田晃司)

骨格筋をはじめとする骨、靭帯、腱、関節などの運動器について肉眼的、組織学的な知識や理論に基づき、臨床においてリハビリを行う治療過程で発生する諸問題、予後の判定などに関して、形態と構造観察に留まらないその機能解析について研究を行い、博士論文を作成する。また、神経性調節および体液性調節の生体制御分野においても同様に実施する。その中で、研究課題の考案、先行研究の進行状況を明確化、研究計画の立案、実験、考察という一連の博士論文作成過程を経て科学者として研究に対する姿勢、独創的な発想を学ぶ。

1. 疾患モデル動物を用いた基礎研究から人への応用する予防医学的見地からの研究
2. 骨形態計測法のような構造解析方法および体液性因子を生化学的に解析する研究
3. マイオカインに代表される体液性因子による生体制御機構に関する研究

(田辺茂雄)

リハビリテーション療法科学に関わる研究のうち、特にリハビリテーション工学に関する研究を行う。リハビリテーション工学とは、臨床での問題点・要望を基に、現場で役立つ実用的な機器・手法を開発する学問であり、以下に具体的なテーマを示す。

1. リハビリテーションロボットに関する研究
2. 動作分析手法・治療手法の開発に関する研究

(武田湖太郎)

リハビリテーション療法科学に関わる研究のうち、計測工学、リハビリテーション工学、神経科学、認知科学を基盤とした以下の計測・評価及び介入に関する研究を行う。

1. 筋活動・脳活動をはじめとした生体計測に関する研究
2. 臨床評価・データベースに関する研究
3. 動作分析手法の開発に関する研究
4. 運動イメージに関する研究

到達目標 Objectives	1. 研究課題を決め、関連文献を調査できる。 2. 研究推進の骨格を決め、研究手法を会得し研究を実施できる。 3. 研究結果の解釈と考察が論理立ててできる。 4. 博士論文を作成できる。		
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule		担当教員 Instructor
1-4 (1 年次)	先行研究及び関連文献の検索		各指導教員
5-10 (1 年次)	レビューの作成		
11-15 (1 年次)	研究計画の立案		
16-18 (2 年次)	プレ実験		
19-20 (2 年次)	疫学・臨床研究倫理審査委員会申請書類の作成		
21-24 (2 年次)	データ計測		
25-28 (2 年次)	データ検討		
29-60 (2 年次)	データ計測 学術論文を作成し、専門の学術雑誌へ投稿		
61-75 (3 年次)	論文のフロー作成		
76-90 (3 年次)	論文の作成		
長期履修 授業計画	長期履修学生は、履修期間に応じて研究指導教員と相談し、授業計画を立てる。		
評価法・基準 Grading Policies	学会発表、学術論文の内容(40%)、および博士論文の内容(60%)で総合的に評価する。 但し、分野合同研究セミナーへの参加を必須とする。		
教科書 Text Book		教材・参考書 Reference Book	
オフィス アワー Office Hour	金田嘉清 大学 8-1F-106 月曜日 12:00-13:00 櫻井宏明 大学 8-1F-106 月曜日 12:00-13:00 寺西利生 大学 8-7F-704 稲本陽子 大学 8-7F-703 月・水・金曜日 8:00-9:00 小野木啓子 大学 8-7F-708 山田晃司 大学 8-7F-707 月・水曜日 19:00-20:00 田辺茂雄 大学 8-1F-112 月曜日 12:10-13:00 武田湖太郎 七栗記念病院 メールでの質問を受け付けます。	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	積極的に自主性を持ってテーマを探 求すること。	履修上の注意点 Notice for Students	